

令和3年度 京都府立洛東高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) (実施段階)

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)			
<p>激変激動の時代を迎えるにあたり、生徒一人一人が高い志のもとに将来を見据えた希望進路を実現し、社会の担い手となる人材を育成する。</p> <p>○基礎学力、とりわけ「文章を読み取る力・書き切る力」「話を聴き取る力・書き取る力」「話す力・伝える力」を習得させる。</p> <p>○Time(時間)Place(場所)Occation(機会)に応じてあたり前のことをあたり前にできる力を育成する。</p> <p>○自他の命を大切にするとともに人間の多様性を尊重し、共生社会の一員として生きる力を育成する。</p> <p>○誰もが未経験時代の到来を他人事とせず「健全な危機感」を持つことの重要性について理解を促す。</p> <p>○学校行事、部活動、ボランティア活動等とおして、生徒個々の資質能力を向上させるとともに学校の活性化を図る。</p> <p>○学校運営協議会の助言を参考にコミュニティスクールの取組を充実させるとともに地域社会に貢献できる力を育む。</p>		<p>・新教育課程の実施に向けて、特色と実績を生かしたカリキュラムとなるよう指導計画を作成するとともに、評価の観点を明確にした評価計画を作成し、指導と評価の一体化を図る。</p> <p>・「洛東高校のグランドデザイン」を明確にし、教科・分掌の指導が一体となる体制づくりとともに、効果的な広報活動について検討を進める。</p> <p>・学習習慣の定着、進路希望の早期決定と実現、基本的な生活習慣(主に遅刻、家庭学習・授業への取り組み姿勢)について、教務部・進路指導部・生徒指導部が中心となって相互に関連づけを行い、具体的でわかりやすい指導方法を学年に提示していく。</p> <p>・生徒に寄り添った丁寧な対話的な指導の成果もみられるが、教職員が一枚岩となって指導を進めるための統一した指導方法の提案が必要である。</p> <p>・各学年の課題を明確にし、継続的・発展的な進路指導ができるよう、学年・教科と連携して具体的な仕掛けづくりを進める。</p> <p>・大学進学を希望する生徒に、しっかりと目標を持たせ努力する姿勢を身に付けさせるために、入学当初からの指導を進路指導部・学年部が連携して行う。</p> <p>・持続可能な社会の構築の視点から環境整備・美化活動を推進するための取組を、美化委員会と一緒に進める。</p> <p>・スクールカウンセラーや諸機関と連携し、様々な課題を抱える生徒への対応を進める。</p> <p>・ICTの活用について、校内全体の活用促進を図るとともに、1人1台端末を見据え、教科を超えた教材の研究やルールづくりを進める。</p>	<p>進路指導 『入学当初から・定期的継続的に・視野を広げる情報提供・内定後指導』</p> <p>学習指導 『授業を大切に・公開授業充実・個に応じて・観点別評価・進路希望に照らして』</p> <p>特別支援 『情報共有・家庭、関係機関との連携・個に応じて・日常観察』</p> <p>ICT活用 『校内研修の充実・教材開発、共有・他校連携・チャレンジ』</p> <p>生徒指導 『褒める・生徒の自主性や主体性を引き出す・温度差のない指導』</p> <p>環境整備 『事に臨む前、事に臨んだ後に場を整える・感謝の気持ち、奉仕精神を育む』</p> <p>広報活動 『全校体制で・HPの充実・SNSの活用・在校生、卒業生の活躍を紹介・出身中学校へのアプローチ』</p> <p>労働環境 『超過勤務縮減・整理整頓・相互理解と協力・意識向上・ノー残業デーの設定』</p>			
評価領域	重点目標	具体的方策	評価			
			中間	最終	総合	
教育課程 学習指導 (教務部)	基礎学力向上のための研究・実践を行い、多様な進路実現に繋がる指導を実践する。	新教育課程の実施に向けて、実行可能性の検証と、観点別評価の試行など新しい時代への体制づくりを進める。	C	C	年間を通じて、コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う校時変更や課題郵送など、さまざまな場面で臨機応変な対応が求められる場面がある中で、迅速に対応できたことは良かった。その一方で、コロナに伴う様々な対応に時間・労力・意識を奪われ、年度当初に重点化して計画をした業務にあまり取り組むことができなかった。「新教育課程の実施に向けての実行可能性の検証と、観点別評価の試行など新しい時代への体制づくりの推進」については、教務部研修会や教科主任会を通して新観点別評価の実施に向けたはたらきかけや投げかけを行うことはできたが、教科単位や学校単位で新教育課程の実施に向けて不十分な部分、心配な部分については次年度も動きながら引き続き検討等を行っていく必要がある。「授業研究や改善に繋がる機会を確保」については、年2回にわたり研究授業や公開授業週間を設定することができたが、日頃から授業見学や授業研究が活発に行われるような体制づくりや環境づくりに課題がある。「年間を通じた学習習慣の定着」や「コロナ禍における学びの保障の体制づくり」については、コロナ禍で学校に来れていない生徒や授業での学習の定着が不十分な生徒に対して、定期考査ごとに考査前学習会を実施するなど、学ぶ機会の保障を行うことができたが、学びの保障を安定化するためのリモート授業等の実施に向けた具体案や具体的方法を模索する必要がある。業務内容の精選、整理を進めることや洛東高校のグランドデザインを明確にし、教科、分掌からの指導が一体となる体制づくりの構築も今後の課題である。	
		研究授業や公開授業週間など、授業研究や改善に繋がる機会を確保し、教科横断的な視点も踏まえた授業力向上の一助とする。	B	B		C
		年間を通じた学習習慣の定着やコロナ禍における学びの保障を安定化させるために、教科や関係分掌と情報共有・連携を図りながら補習・補充等の充実を図るとともに遠隔授業の実施に向けた体制づくりを行う。	C	C		C
特色推進 広報活動 (総務企画担当)	学校内外へ本校の特色や教育活動を発信し、ホームページや公式SNSなどを通じて広報活動を充実させる。 学校と地域・保護者等との相互の信頼形成のために、本校の教育活動について広く情報提供する。	ホームページやパンフレット、公式SNSなどを通じて本校の教育活動や生徒の様子を発信し、学校の内外に向けて積極的な広報活動を行う。	C	C	コロナの影響は受けたが、学校公開等を実施することができた。学校内外への広報活動を行う上で、特に学校内への広報については、更なる工夫が必要である。学校公開の申込方法等について、柔軟に対応できるよう改善した。学校行事がコロナに対応した形で実施できるようになってきたので、SNSやHPを円滑に運用できるよう、設備や体制を整えていきたい。	
		中学校や教育連携校、地域、PTAなどと連携をとり、本校の学校公開や中学校訪問などの取り組みが円滑に実施できるよう信頼形成に努める。	B	B		C

生徒指導 (生徒指導部)	学校生活(学校行事、部活動、ボランティア活動等)を通して、進路実現に向けた規律ある規則正しい生活態度の指導(身だしなみや遅刻指導等)を中心にあたり前のことをあたり前にする指導を全教職員で連携を取りながら行う。	この先の将来を見据え、社会の集団の一員としての態度の育成を目指し、学校生活や行事等を通して、言葉使い、身だしなみなどその場に応じた態度の育成を図る。	C	C	コロナ禍において、様々な行事を中止せざるを得なくなり、生徒達の学びの機会が失われた。それに伴い、行事等で得られる学習機会や人間的成長する機会も大幅に減少した。行事やクラスでの取り組みがない中で、社会に出るための態度の育成には苦勞した。しかしながら、10月には体育祭と校外学習を行うことができ、学校らしいことができた。また、その中で生徒達は本当に光り輝いており、行事の大切さを教員としても改めて再確認でき、来年度以降に活かそうと考えている。行事の中でもっと生徒達を育てる工夫が求められていると感じた。来年度に向けては、行事だけで成長させるのではなく、学校生活の中で我々が工夫をしながら成長できる手助けをしていきたい。 生徒指導部よりは、定期的に発行し、生活上の注意事項や周辺住民からのお声を反映したりできた。生徒達の規範意識をさらに向上させるためには、言い続けることが大切である。また、普段の生徒の活躍を披露する場も多く設定した。来年度は定期的に更新できるようにしたい。
	褒める機会の充実を図り、生徒の自己肯定感を高めるとともに自らの課題を主体的に解決する意欲と実践力、社会性を育成する。	生徒指導部だよりを定期的に発行し、生活上の注意事項(交通ルールや交通マナー・SNS関連も含む)や盗難防止等の啓発指導を適宜行い、自己管理能力を高め社会性を育成する。また、褒める機会を増やし、生徒も視覚的に体感できるように努力する。	B	B	
	いじめの未然防止、早期発見に努め、いじめが発生した際には迅速かつ適正に対処する。	いじめに向かわない・許さない態度・能力を育成するために、人権学習はもとより日々のあらゆる教育活動を通じて自他の人権を尊重する指導を行う。日常の生徒理解、いじめアンケート、面談等により早期発見に努め、発生した際には迅速かつ適切な情報共有、いじめ対策委員会を中心とした組織的な対応等を行う。	B	B	
進路指導 (進路指導部)	3年生進学希望者の、希望実現率100%を目指す。	学年部・教科と連携し、学力実態・進路希望などの情報共有を図り、時期に応じて検討会を実施するなど、個々の進路に対応した入試対策指導を行う。	C	C	<ul style="list-style-type: none"> ・実力テスト、模擬テストの結果、進路希望調査、調査書発行状況、受験結果等を一覧表にして共有した。適宜利用する形になったが、組織的に出願指導に利用したのは、共通テスト後の出願指導のみであった。 ・読む力、書く力の重要性を説き、2年生は小論文ステップワークを利用し、1年生は小論文講演会、小論文模試を通して力を伸長するよう、学年と協力して取り組んだ。 ・各種模擬試験を中期目標に設定し、通常補習の内容とリンクさせながら学習を進めるように指導した。 ・進路部通信(のべ約20号)を発行し、教職員・生徒との情報の共有に努めた。 ・進路研修会として、外部講師(角野裕美氏)に教員向けの小論文指導について講演いただいた。 ・就職希望者に就職するにふさわしい姿を認識させ、着実に前進させるには多大なエネルギーを要する。コロナ禍にあって、生徒の要望する職種が減っているのも、生徒のモチベーションが上がらない一因になっている。安易な就職希望は途中で離脱することが多い。成績、欠席、積極性などが合否のポイントになっている。早期からの粘り強い指導が今後も必要。 ・就職試験がリモートで実施されることもあった。「基本対面」を要望していく一方で、リモート対応も準備しておく必要がある。今年度は図書視聴覚部の協力を仰ぎ、数件のリモート入試を実施することが出来た。 ・コロナの影響で、予定していた外部講師を呼べないケースがあった。残念である。 ・Classiのアンケート機能を利用し、各種説明会の希望調査等を行った。Classiの利用が昨年度より定着したものの十分に日常化していない点、また、機能の一部しか使えていない点については課題となっている。
		多様な入試に対応できるように、適切な進学補習講座・面接対策講座を設定し、定例で実施する。自学自習を基礎とした効果的な補習の在り方を工夫し、学力伸長を図る。また、小論文対策として小論文ステップワークを活用するとともに、説明会及び小論文模試を設定し、個別指導へとつなげる。	B	B	
		各種模擬試験を受けるよう指導し、それらに対して目標設定・受験・受験直後の復習・答案返却後の復習のPDCAサイクルを確立させる。	C	C	
		大学入試改革に向けて情報収集し、入試の傾向や対策について進路部通信や研修会を通じて、教職員・生徒への発信と情報の共有に努める。	C	C	
	学校紹介を希望する3年生の、就職内定率100%を目指す。	2年生の秋から就職指導を開始し高校生の就職制度を理解させ、生徒の希望や適性に応じた指導を学年部や外部機関と連携して実施する。また、就職に向けて基礎学力と社会の一般常識を身につけさせる学習に取り組ませる。	B	B	
		社会人としてのマナーの習得や基本技能の習得や対人能力の向上を図る指導を行う。さらにロールプレイングを用いた練習によって実践力をつけさせる。	B	B	
		面接対策を徹底する。身だしなみや入退出などの礼儀作法、言葉遣いなど粘り強く指導する。また、面接官として社会人を招聘した実践的な模擬面接を設定する。内定後も社会人になるという自覚を持たせるよう指導を継続する。	B	B	
	進路希望実現率が100%になるように、1、2年生に対し早期から具体的な見通しを持たせる。	生徒の進路希望を早期に把握し、高校3年間を見通した進路実現への道筋を考えさせる。短期・中期・長期的目標の立て方をレクチャーし、自分で計画的に学習する基礎を固める。他分掌と連携し、毎日の学習・学校生活を大切にすることが出来るよう指導する。書か力を育てるため、小論文ステップワーク等を活用する取り組みを進める。	B	B	
進路別・分野別説明会の実施や進路部通信の発行などにより、適切かつ最新の情報提供を行い、進路に対する生徒の意識を高め希望進路の実現に向け具体的な見通しを持たせる。		B	B		
ICT教材や学習支援サービスを充実させる。	学習支援サービスの運用・活用方法を検討し、電子黒板などのICT教材の活用を推進する。生徒の進路意識を高め、心を揺さぶる一助となる教材を工夫する。	C	C		

学校保健 学校安全 教育 特別支援 (保健部)	生徒を理解し、他教職員と協力して支援の充実を図る。 環境問題・環境美化に対する生徒・教職員の意識の向上を図り、安全で快適な学校環境の整備に取り組む。	様々な課題や不安を抱える生徒・保護者に対し、スクールカウンセラーや関係機関と連携を図り、指導・支援の方法を担当・教科担当者と共有し、支援体制を整える。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・SCやSSWと連携し、昨年度以上に課題を抱える生徒・保護者や担任の先生方に対してサポートを行った。今年度はSCやSSWを交えた研修会も開催し、支援の輪を強めることができた。 ・昨年度末の内規の変更により混乱した場面も見受けられたが、他校の例や本校の内規を照らし合わせることで一定整理ができた。 ・ごみステーションでの分別指導や美化週間の活動、朝の保健部の掃除兼見回りを通じて、学校美化に取り組んだ。学校行事とうまく運動できなかった点や教員不足による掃除区域の割り振りの難しさが課題である。次年度に向けて、一年を通して行事と大掃除を連動させる見直しを持つこと、掃除区域の見直し等が必要である。 ・サポートスタッフの協力もあり、日々施設の共有部分の消毒を行った。HRや教科に関連する施設の消毒は担任や担当者が行っていたが、日々消毒することは難しいことが見受けられた。次年度に向けて消毒の時間を設ける等、教員の意識を高めるだけでなく、消毒を行えるような仕組み作りが必要といえる。
		公共の場である学校で、掃除担当者だけでなく一人一人が分別・清掃の意識を持って環境美化に日々取り組むように指導する。 昨年度に引き続きゴミステーションでのゴミの分別指導、美化週間のゴミ分別・削減の取り組み、ペットボトルキャップリサイクルに取り組む。	C	C	
		コロナウイルス感染予防のため、「マスク着用・咳エチケット・三密の回避・手指消毒の徹底・感染症にかからない体作り」等、withコロナの時代に必要となる意識付けを他の教職員と協力して指導し、施設消毒の徹底を行う。	C	B	
読書指導 視聴覚教育 (図書視 聴覚部)	生徒の読書離れ・活字離れの現状の改善に努め、利用者の視点に立った図書館運営を行う。	図書館だよりと図書委員会だよりを定期的に発行し、教室掲示またはClassilにより、生徒におすすめ図書などの情報を提示する。また、蔵書検索の便宜を図るため、京都府立図書館の推進するカーリル(蔵書検索サービス)を導入する。	C	B	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館だよりの定期的発行や教室掲示・Classiでの情報提示及びカーリルの導入は行った。図書委員会としては、「だより」は卒業記念冊子を含め9回発行、読書週間ポスターを2回作成した。 ・図書館でのクラス単位での授業の実施が困難な状況にあり、図書館と授業との連携が難しいが、現状での活用等の連携状況を取りまとめ、今後の活用方法を検討し、図書資料活用の促進に努めたい。なお一斉読書の充実に向けた他分掌との連携については、十分とは言えないができていた。 ・校内ICT活用については、校内ネットワークを利用したHR教室への動画配信を実現できた。また、iPadの貸出も開始し、それに向けての研修会も実施し、ICT活用に向けてサポートを行った。
		図書館と授業との連携状況を紹介して、教科での図書資料活用を促進する。また、一斉読書の充実を図るため、他分掌との連携を高める。	C	C	
		校内ICT活用について考え、授業等での利用をサポートする。	B	B	
教育環境 整備 (事務部)	施設・設備の維持・安全管理をはかる。 特色ある教育活動や広報活動等の実施のため、学校予算を効果的に執行する。	「安心・安全」を最優先に、ヒアリングで修理要望箇所を把握し、危険箇所の早期発見対応を行う。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校で修繕が可能な箇所や、学校敷地内の倒木等突発的なアクシデントに対し、業者による対応を含め早期に対応することができた。経年劣化による不良箇所に対しても予算の確保に努め、可能な範囲で修繕を行うことができたが、課題が残されている。 ・各分掌、教科の要望を元に必要に応じ聴き取りを行い、緊急性の高いものから順次、整備した。ICT教育推進に必要な物品についても一整備することができた。今後は、出席停止や学級・学校閉鎖時などでも活用される見通しである。 ・感染症対策のため、網戸の設置やエアコン対応等、換気を心がけた。
		各分掌・教科のヒアリングを実施し、予算を効果的に配分する。	B	B	
		感染症対策を優先しながら、制限された中で効果的な教育活動が行えるよう支援に努める。	C	B	
第1学年 部	一人一人が洛東高校の代表であるという自覚を持たせ、ルールを守って行動させる。また、進路実現の意識を高めさせ、学習習慣の定着を図る。	時間・身だしなみ・携帯電話の基本的な学校生活のルールが定着するように日常的な声かけを大切に、関係分掌や保護者と連携して段階的に継続して指導する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 学年集会や講演会など、年度当初から時間厳守で集合することができた。1学期末に全体に対してSNSの利用について注意の呼び掛けと、身だしなみを中心にルールを守ることの大切さを伝えた。指示されたことをしっかりやろうとする生徒が多いので、集団としては良い方向へ向かっており、少し緩んでいる生徒もいたが担任の声掛けとともに他分掌、教科担当と連携して指導をしていくことができた。 時差登校中のSHRで計算問題や新聞を用いたワークシートを使った人権学習など朝学習として取り組ませることができた。夏季休業中やLHRで進路指導部と連携し、動画視聴やワークシート、レポート、小論文に取り組ませることで進路について意識を高めさせることができた。 日々の清掃や大掃除に積極的に取り組んだ。体育祭や校外学習では委員や係を中心に仲間と協力して取り組むことができた。部活動に加入している生徒については主体的に取り組む、大きな声で挨拶するなど学校に活気を与えてくれた。
		SHR等を利用して、文章を読み取る力、話を聴き取る力、思いを伝える力をつけさせる取り組みをする。また簡単な計算力や漢字の定着を図る。	B	B	
		学校行事・清掃活動・部活動等への主体的な参加と行動を促す。	B	B	

第2学年部	社会を担う一員になることを展望しながら、具体的な進路目標を早期に持たせる。またその実現のために必要な行動が取れるように促す。	<p>上級生としての自覚を持たせながら、時間・身だしなみ・携帯電話のルールや挨拶のマナーについて、日常的な声かけを大切にしながら指導する。指導においては関係分掌や保護者と連携して段階的に指導する。</p>	C	C	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な場面で日常的に指導を重ねてきて、集会などには時間厳守で集合することができている。日常的に遅刻が多い生徒、身だしなみが整っていない生徒はかなり絞れてきているが、十分指導しきれたとは言えない。進級や18歳成年とも関わらせながら、引き続き丁寧な指導を続けていく必要がある。 ・携帯電話に関わる指導について、件数は少ないが、生徒指導部とも連携した段階的指導が必要である。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・教科担当者と情報交換をしながら、日常の授業を大切にさせるとともに、定期考査などでしっかりと力を発揮させる。 ・ホームルームの時間、朝読書等の機会を通して様々な文章を読ませる。また各種感想文、ステップアップワークなどの取り組みにおいては、正しい表記で定められた分量の文章を書ききるように指導する。 ・進路部と連携しながら、進路実現に向けたイメージや見通しを持たせ、具体的な行動につなげるよう促す。 	C	B	C	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に授業は落ち着いて受けられており、単位さえ取ればよいという生徒はほとんどいない。中学校までの苦手意識を克服して前向きに学習に取り組める生徒が一定層育っている。一方進路の見通しを持って学習に取り組めている生徒はそれほど多くない。また、欠席・遅刻過多や成績不振、提出物不十分により進級が危ぶまれる生徒もおり、最後まで指導しきる必要がある。 ・進路目標が持ちきれない生徒に対しては個別指導の必要があるが、その時間的余裕がないのが現状である。 ・小論文ワークなどが書かせればなしにならないよう、不十分ながらフィードバックを行うことができた。冬休みの課題として「自己PR」に取り組みさせたこともあり、就職指導講座においても自己PRがしっかりできるなどの成果が見られた。
		<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や部活動、生徒会活動、清掃活動に主体的に、また学校の中心となって取り組むよう促す。 ・あらゆる機会を捉えて人権に対する理解と意識を高め、人も自分も大切にできるよう促す。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動や生徒会において中心的な役割を果たすことができている。 ・体育祭や校外学習においては、一部課題は残ったものの、ルールを守って充実した行事にすることができた。 ・自分とは異なる価値観を持つ他者に対して、攻撃はしないものの、どう受け入れ協力していくかという点においてはまだ課題が残る。 	
第3学年部	全員の希望進路実現を前提に、そこにとどまらず、大人として「自立して生きる力」を生徒に身に付けさせる。	<ol style="list-style-type: none"> 希望進路実現に向けて、進路指導部と連携して以下の取り組みを行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部と連携し、進学補習や就職指導講座への出欠状況を把握し、各担任による進路指導につなげる。 ・四年制大学進学希望者について、進学補習や進学希望者対象の集まりを適宜活用し、集団としての意識を高める。 「自立して生きる力」を身に付けさせるため、各分掌と連携して、以下の取り組みを行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・早期の進路内定者に対し、資格・検定試験の受験を促し、学習への意識を高める。 ・高校生活見直そう日を活用し、基本的な生活習慣の確立を図る(遅刻が多い生徒への反省指導だけでなく、月間皆勤賞の表彰などを行う)。 ・スマートフォンとの付き合い方について、脳への悪影響(依存症)という観点から、講演会を実施する。 ・期限やルールを守れない生徒について、学年団として統一基準の下で個別指導を行う。 	C	C	C	<ul style="list-style-type: none"> ・就職希望者生徒については、進路が確定した生徒は最後まで進路指導部と連携した指導を行うことができたが、確定できず途中で希望進路の変更をした生徒もいた。 ・四年制大学進学希望者については、自学自習を促す指導を行ってきた。安易に指定校推薦での合格のみを目指すのではなく、受験勉強に取り組んで合格を勝ち取る生徒が多かったように思われる。しかし、自力で参考書を読み込むことができない生徒は苦戦し、希望進路の変更を余儀なくされた。 ・早期の進路内定者に対し、共通テストの受験なども促したが、十分に組みませることはできなかった。学年として、資格・検定試験の受験を促すことはできなかった。 ・高校生活見直そう日の活用は不十分であり、今後に向けて取り組み内容の再考が必要である。 ・薬物乱用防止教室において、スマートフォン依存の危険性についても注意喚起を図った。しかし、高3段階ですでに過剰使用が定着しており、スマートフォン使用のあり方について早期からの指導が必要であると感じる。 ・朝のSHRに遅刻する生徒が多く、遅刻指導の呼び出しにも応じていない生徒が一定数いた。

評価の基準 A:十分達成できている。(目標以上の成果が得られている。) B:ほぼ達成できている。(ほぼ目標通りの成果が得られている。) C:達成できているとはいえない。(成果はあったが、目標は達成できていない。) D:ほとんど達成できていない。(ほとんど成果が得られていない。)

学校運営協議会による評価	<ul style="list-style-type: none"> ・評価が厳しめではないか。適切な目標が設定されているか、次年度以降検討が必要である。 ・目標設定では、評価の支えとなる根拠が示せるよう、数値目標も取り入れながら設定するとよい。 ・地域は洛東高校を応援している。自然環境、地の利に恵まれており、地域の使える人材を活用し、教育活動を進めてほしい。 ・夢や楽しさがある高校生活を望んでいる。両立を目指すにはどうすればよいかという視点でも、学校改革を進めてほしい。 ・洛東高校は頑張っている。イメージもよい。キャリア教育につながる授業も多く展開されている。これからも協力していきたい。
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・少しずつであるが成果が見られる進路指導について、さらなる充実を図りたい。 ・新学習指導要領の実施に向け、授業デザイン、観点別評価の両面から、さらなる研修が必要である。また、一人1台端末の導入に向けて、各分掌が連携し、ICT教育を推進する。 ・スクールポリシーの策定に向け、学校のグランドデザインの明確化を図り、各分掌が連携した学校運営を図る。 ・学習習慣の定着や基本的な生活習慣(遅刻や身だしなみ等)の指導を各分掌が連携して行い、自学自習の習慣を確立するとともに、自らの未来を具体的にデザインし、進路実現を図る体制を強化する。 ・効果的な広報活動を行い、選ばれる学校づくりを進める。